

消費生活新聞

発行日
9月25日

＜再利用＞

Reusu
使えぬものは捨て
ないで繰り返し使う。
Recycle
資源を回収し再生
して使う。

3R = Reduce, Reusu, Resycle
環境に良い3つの取り組み

＜再活用＞

Reduce
ゴミの発生を減らす。
Refuse
むだものを購入しない。
Repair
修理しながら大切に使う。

循環型社会形成推進基本法
日本における循環型社会(資源を
無駄なく使い、環境汚染を少なくする社会)
の構築を推進するための基本的な考え
となる法律で、2000年に制定。廃棄物
リサイクルなどの対策の基盤が整備さ
れました。

消費

消費者の権利と責任
商品マークについて

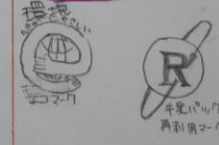
権利

- 安全である権利
商品が生命健康に害を及ぼさず、知らないうちに汚染されている権利
- 知る権利
商品の情報を得る権利
- 選択する権利
商品を選ぶ権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利

責任

- 批判的な意識をもち責任
感を持って行動する権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利
- 知る権利
商品を知る権利

商品マーク



品質
Gマーク
デパート品質の優
れた商品。

安全マーク
消費者に危害を及ぼさ
ずと考えられる商品が安全
なときに保証マーク。

安全・福祉
シールマーク
盲導犬マーク

生産

フェアトレードについて

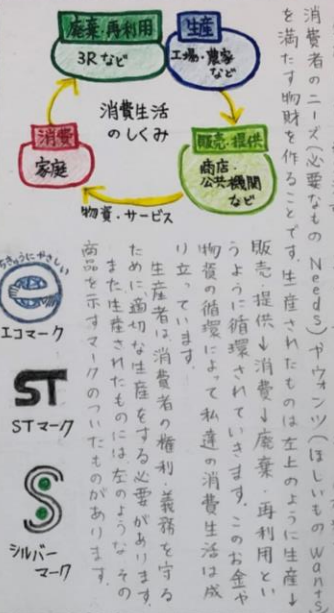
安い商品(他のもより格段に安いもの)には
不当な労働行為や環境汚染があることがあります。
実際、安い商品の原産国を見ると、人権侵害が安
い東アジアの国が多数を占めています。そのような国
では小・中学生ほどの子供が低賃金で働かされて
います。
フェアトレード商品とは、生産者が無理のない
数、適正な値段で取り引きされた商品です。
フェアトレード商品を買うことは、貧困のない公正
な社会をつくることに役立ちます。



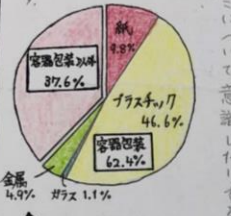
消費生活新聞

9月25日

生産

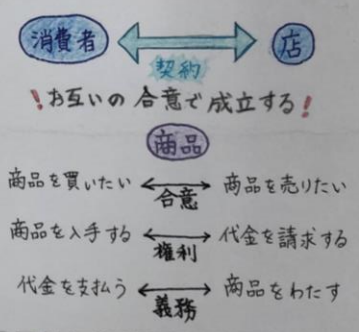


廃棄・再利用



↑主な廃棄物(容積比)

消費



販売・提供・購入方法

ものやサービスの販売にはお店での販売・訪問販売など多くの種類
があります。どの販売においても左のように消費者と店などの合意による契約をし
ます。契約ではお互いの権利・義務が生じます。
また購入方法にも左のように色々な種類
があります。消費者は場合に応じてこれらを使
い分けることが大切です。

店舗販売
専門店・デパート・スーパーマーケット、
個人商店、消費生活協同組合の店舗など
個人・実物を自分で見て触れて選べる。など
【無店舗販売(ネットショップ)】
【電話・二十四時間好きな時に買いたい物が出来る
【宅配】
実際に店に訪ねたり電話したり出来ないが、
商品についてくわしくはわからない。

編集後記

消費者は商品を購入する時に店側と契約を結びます。その
際、消費者には左の8つの権利と5つの義務が与えられます。
権利
①安全である権利
②知らされる権利
③選択する権利
④意見が反映される権利
⑤補償を受ける権利
⑥消費者教育を受ける権利
⑦生活の基本的ニーズが
満たされる権利
⑧健康な環境の中で働き
生活する権利
義務
①批判的な意識をもつ責任
②自己主張し行動する責任
③社会的関心への責任
④環境に与える影響を自覚
する責任
⑤連帯する責任
これらによって私達消費者は情報
を得て健康で幸福に暮らすことが
できています。また私達はこの
義務を果たすことで消費者市民社会をつくる
ことができます。
これらの権利や義務の他、消費者基本法、消費生活
法、消費者安全法などの法律や消費者庁、国民生活セン
タなどの消費者を守る機関があります。

循環形社会 新聞

発行日 9月29日
発行所

賢い消費者になるために

消費者には権利と責任が伴います。権利は全部で8つ。
・安全である権利・知る権利・選択する権利
・意見が反映される権利・補償を受ける権利
・消費者教育を受ける権利・生活の基となる権利
・健康な環境の中で働き生活する権利
責任は全部で5つ。
・批判的な意識を持つ責任・自己主張し行動する責任
・社会的関心への責任・環境に与える影響を自覚する責任
・消費者としてこれらを意識して物を買うようにすること
と良いですね。

店舗販売か 無店舗販売か？

今の世の中には通信販売というものがあふれています。これは自分から店に行かなくても物が買える便利なものです。それでは店舗販売に対してどのようなメリット・デメリットがあるのでしょうか。
メリットは時間がかかってもいつでも見られて買えることです。また店に行くよりも他の商品との比較がしやすいことも挙げられます。それに対してデメリットは実物を見たり触ったりできないことです。店舗販売と無店舗販売は自分から買いたいものによって使い分けが必要があります。その時、このメリット・デメリットどちらを大切にしたいかで判断するよりも良いかもしれません。

消費生活って？

再利用が大切な理由
循環形社会において大切な5つのR
Reduce ... ゴミの減量
Reuse ... そのまま再利用
Recycle ... 形をかえて再資源化
Refuse ... 断る
Repair ... 修理する
Long Use ... 長く使う

契約とクーラゲッ

契約とは...
消費者(人) 販販者
商品と... 入金する権利 返す権利
お代金... 支払う義務 請求する権利

クーリークワッ
ル-ルとポイント
ル-ル
・電話勧誘や訪問販売で購入したものであること。
・契約書を受け取った8日以内であること。
(マルメ商法は20日以内)
ポイント
必要事項をハガキに書き、特定記録郵便か簡易書留で送る。
(ハガキの控えをとっておく。)

まとめ

消費者は物を買うときに買わなければならない責任と権利がある。消費する側の人間として地球環境のことも考え、再利用をするべきである。
契約をする際は内容に十分気ををつけ、クーリークワッを有効に活用する。購入の際のデメリット・メリットを考える。

家庭新聞

10月1日(木)
2-8-32

循環形社会とは？

私たちの生活は、地産地消に基づいて、資源の循環によって成り立っています。有るを有りとする。近頃では、むだに、同時に環境汚染を少なからず生じさせている。修理しなから、壊れたものをそのまま捨てる。資源を無駄にしている。自然資源は有限で、再生可能な資源と再生不可能な資源がある。再生可能な資源は、適切に管理すれば、限りなく利用することができる。再生不可能な資源は、減らす、再利用する、リサイクルする、などによって、資源を有効に利用することができる。

富山ライトレール

富山ライトレールは、2006年に開業した、富山県内を走るライトレールである。環境に優しい交通手段として、多くの人々に利用されている。また、沿線の観光地や商業施設と連携し、地域の活性化に貢献している。

富山の取組

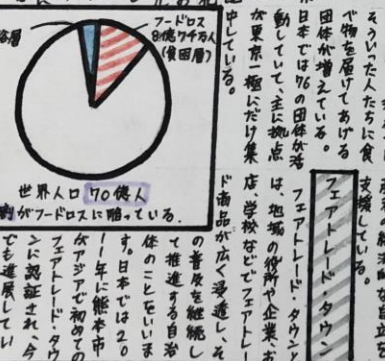
富山県は、環境に優しい社会の実現を目指し、様々な取組を行っている。例えば、省エネ型住宅の普及、再生可能エネルギーの導入、資源の有効利用など。また、市民への環境教育や、企業の環境対策の促進など、多岐にわたる取り組みが行われている。

食のロス削減
フードロス削減は、環境保護と食料安全保障の観点から重要な課題である。富山県では、生産者、流通業者、消費者の連携によるロス削減に取り組んでいる。例えば、食品の賞味期限の延長、包装の工夫、余剰品の活用など、様々な対策が実施されている。

環境に配慮した社会

Reuse
Reduce
Recycle
Refuse
Repair

環境に配慮した社会の実現には、一人ひとりの意識と行動が大切である。5Rの原則を守り、資源を有効に利用し、環境汚染を減らす。また、環境に優しい商品やサービスを選ぶなど、日々の生活から環境保護に取り組むことが求められる。



世界人口70億人
食料が食品ロスに陥っている。



フェアトレードのマーク



フェアトレードの基準に合っている商品も意味する